

紀北農芸高等学校

実施日時	令和2年10月28日(水)
参加者	生徒71名、教職員20名、地域住民等0名 計91名
実施内容	心肺蘇生法、防火講話、 α 化米炊き出し訓練 等

ねらい

有事(地震・火災等)に備え、地域住民と連携し、防災知識・技術を高めることを目的とする。

主なプログラム

- 1 心肺蘇生法(AED講習)
- 2 防火講話
- 3 α 化米炊き出し訓練

概要

- 1 東南海地震を想定した、避難時の救助方法、炊き出しを中心に実施した。また、地震発生時や水害発生時に火災による被害が多いことから、有事の際に火災を起こさないことを中心に学習した。
- 2 本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、感染防止に留意した心肺蘇生法を学習した。また、感染拡大防止のため、今年度は地域住民の招待は控えることとした。

参加者感想文

・心肺蘇生法

(1年男子) AEDについては、中学校の頃からよく使い方を習っているので、だいたいは知っているのですが、この状況(コロナウイルス)の中での使い方を新しく知ることができました。

(1年女子) 中学校でもAED講習を受けましたが、コロナの影響で少しやり方が違って納得しました。感染防止があるので、ハンカチなどのものが必要になってくるんだと思いました。

(1年女子) 私は今まで生きてきた中でAEDを使ったことがないし、そのような状況にもあったことがないので、気を抜いてしまって、そんなことはないだろうと思っていましたが、やはりもしもの時のことを考えると、こういう知識を得ておくことも大切だし、知っておいて損はないと思いました。

(1年女子) 私は小中とAEDの講習を受けたことがあるので、三度目だったのですが、もう一度確認出来てよかったと思いました。いつAEDを使わなくてはならないときが来るかわからないので、とても勉強になりました。もらった紙(資料)を読み返して、しっかりと覚えておこうと思います。

・防火講話

(1年女子) ヒーターなどの周りは、物を置かないようにしようと思いました。いつ何が起こってもいいように、棚などは固定して物が落ちないようにしたいと思いました。

(1年女子) 火事の原因が、自分からでも気づけることが分かった。なるべくストーブの近くには物を置かない。停電したらコンセントを抜こうと思った。

(1年女子) 細かい対策やどういう風に災害が起こるかを改めて確認し、知ることができました。この寒い時期にストーブに気を付けなければいけないと思い、火事に限らず、災害全体に目を光らせないといけないと感じました。

・α化米炊き出し訓練

(1年女子) めっちゃいい匂いががして、お湯を入れて15分でできるのでめっちゃ便利だと思った。私は五目を食べましたが普通においしかったです。いざ避難すると思うとこれがあったらうれしいです。

(1年女子) ご飯は少し硬かったけど、普通においしかった。災害の時にα化米があればめっちゃ便利なのが分かった。

(1年男子) 日々ぜいたくばかりしてはいけない。災害時に食糧があるということは恵まれていることなので、感謝したいと思いました。

(1年女子) いろんな味があって、クラスの子たちと食べ合いをしましたが、味が薄いものもあれば、濃いものもあって、何かあったときに子供から大人まで食べやすいご飯だと思い、こんなおいしいものを食べられると思うと、満腹にもなるし、とてもいい食料だと思いました。

成果と課題

【成果】

「地域の方々と協力して自分にできることは何かを考えたい」「戸惑って行動できず、大人に任せてしまふかもしれないが、冷静な判断と落ち着いた気持ちを忘れないようにしたい」と感想に書いた生徒もおり、有事の際、生徒自身が何ができるのか、何をすべきなのかを意識させるいい機会になった。また、地震が発生した際に、火災などにより被害を拡大させないよう、普段から心掛ける機会になった。

【課題】

今年度は、コロナウイルスの感染拡大を防ぐことを前提としたので、地域住民や消防署員に来校していただくことができなかった。とはいえ、実際に災害が発生した際には、本校も避難所に指定されているので、コロナウイルス感染拡大を防ぎながら避難所の設営をしなければならないことを踏まえた防災学習を取り入れる必要があった。また、体験を取り入れた学習内容も、今年度は感染拡大防止のため控え、講義形式が中心となった。本校生徒の意欲・関心を高めるということを考えると、もっと体験的な内容を取り入れたかった。

開講



α 化米炊き出し訓練



防火講話

